

令和6年度 第3回甲賀市行政改革推進委員会 会議録

日時：令和6年9月26日（木） 10：00－11：00

場所：甲賀市役所 別館1階 101会議室

1. 審議	
第5次甲賀市行政改革大綱にかかる提言(案)について	
【事務局説明】資料1、2、3について 資料1の第5次行政改革大綱の（たたき台）は、前回の委員会での意見を踏まえ、行政改革推進本部会議等庁内協議を得て修正したものである。これと併せて資料2の答申案についても確認いただき、内容を確定したい。	
【質疑応答】	
委員長	事務局の説明についてご意見やご提案をいただきたい。
事務局	（欠席委員から事前にいただいたご意見を共有） 資料2の答申案については異論なし。 資料3の「庁内協議の主な意見」については、事務局の発言など全体的に外部の支援に頼っているような印象を受けた。具体策が意見として出ていない。稼ぐことが理解できていない。削る、減らすことは何をすべきかわかれば自ずと見えてくるもの。 以上の意見をいただいた。
委員長	アクションプランを考える上では大事な視点である。その他はいかがか。
委員	資料1 P2において、地域が自立運営するための支援メニューの充実が課題として上がっているが、ランドデザインについての反省はないのか。中山間部や過疎地域では、担い手自体が少なくなっているが、この点についての支援がない。
事務局	この件、市長を含めたタウンミーティングでもよく聞く話であり課題認識を持っている。草刈りなどは業者にお申し地域負担軽減を図る考えもある。現在、自治振興会に交付している自治振興交付金について、あり方や使い方の見直しを行っており、課題感を持って再検討しているところである。
委員	例えば草刈りについても命がけでしなければならないような場所もあり、中山間部の活力の低下への課題感に共感するところがある。現状維持のための費用と責任を何とかすべきである。
委員長	本委員会の役割として整理すると、今発言のあった地域コミュニティの課題については、事業の見直しや行政経営の観点から、例えば補助金についてなど議論していくべきと考える。
事務局	行政と市民で負担の押しつけ合いをすることはよくないことである。地域課題は様々であるため、課題解決に向けて議論していきたい。
委員	地域では区に入らない人や抜けていく人がおり、区に入ることについて何のメリットがあるのかという意見も聞く。例えば自治会館の維持も皆の負担の積

	み立てでできていることであるので、地域コミュニティの寂しい状況を見るとこれからの成り行きに不安を感じる。
委員	<p>資料1 P 2にある多様なニーズに対応していくためにはコストがかかる。一方で人口減少、社会保障費増、職員数減の状況についても書かれているため、相反する記載になっているのではないか。本当に大綱の目標を達成できるのか。この表現が正しいのか。</p> <p>またGX推進について、推進することでどう財源確保していくかが繋がっていないと感じる。</p>
委員長	<p>相反する記載について事務局の思いを代弁すると、市としては職員が少ない、市民が少ない中で、ニーズに対応していかなければならない状況。少ない人数で生産性を上げていく必要があることを記載する際、直接的な表現を避け、このような表現になったと想像している。この点については、大綱の中でもっとストレートに表現しても良いのでは。市民にもわかった方が良くことであり、行政と市民が助け合い、市民協働、公民連携を進めていくために必要なことであると考え。</p> <p>GX推進についても財源確保に繋がるものと考え、全体として事業をスクラップ・リニューアルしつつ、財源を増やす努力をすることが甲賀市の言いたいことではないか。</p>
委員長	<p>先ほど委員が言われた通り、地域自治政策は行革の一環であると考えており、市全体として効果的な政策を打っていくことが行政経営に資するものである。補助金が現場にとって役立つものであるのか、地域との役割分担が適正か等、既存の事業、団体、組織、全体を含めて見直していく意識を行革大綱の中で強調していただきたい。</p>
委員	<p>地域コミュニティの担い手がいなかったことや地域が疲弊しているという表現は大綱方針や重点テーマ・方策に入れてもよいのではないかと感じる。人が少ない、足りないことが課題なのに、多様なニーズに対応していくのは相反しており違和感がある。</p>
2. その他	
行政評価制度の見直し（たたき台）について	
<p>【事務局説明】 参考資料1 説明</p> <p>行政評価の目的は、事務事業の成果等を評価した上で業務改善に反映させようとするもの。事務事業評価のフロー図の通り、評価の判定方法・基準を整理していき、社会情勢や事業の必要性、有効性、効率性などの視点から精査し、事務事業の改善や見直しにつなげることを意図している。今後は評価結果を公表していく予定である。</p>	
委員長	事務局の説明についてご意見やご提案をいただきたい。
委員	<p>行政予算の合理性について、編成に合理性がないと適正でないが、地域住民の納得性が高い予算利用の在り方もあって良いのではと考える。高齢化が進んだエリアでは、自力で地域活動ができない場合に業者と連携して行うための公的費用の支援という視点でも評価が必要なのではないかと感じる。</p>

委員長	漠然とした話であるが、個々のケースで考えるべき内容でもある。また職員の不公平感を生まないためにも統一した基準が必要である、
委員	市のイベントについても市民向けか域外PR向けかなど、また若手世代か高齢者世代かなどターゲットを考えて行うべきである。年度ごとに何かテーマを決めて重点的に課題を解決していくなどで、若い世代に住みやすい街になっていかないといけない。
委員	資料中の「コスト全体からみた適正性」とはどういうことか。
事務局	コスト全体から見た市の負担の適正性については、費用がかかりすぎているあるいはその費用をかけたことに対してアウトカムが良くない場合に、それが適正であるかの判断が必要と考えている。この基準については、数字でわかるものであると良いが、福祉や子育て、環境の分野であれば、10年後にその成果が出ることや、そのための投資の目的もあることから、この点の扱いについて整理していきたい。
委員長	ありがとうございました。 以上の意見を受け、改善・修正等を行っていただきたい。